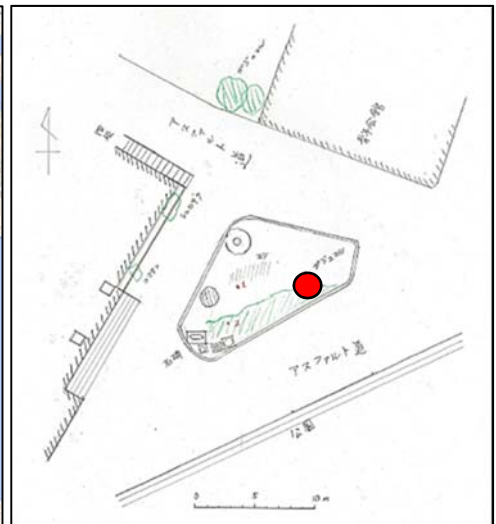


ガジマル



認定番号 73

樹種名	ガジマル	科名	クワ科	方言名	ガジマル	学名	<i>Ficus microcarpa. L.f.</i>					
形状・寸法	樹高 13.1 m	胸高周囲 4.4 m	根本周囲 4.8 m	樹幹占有面積 412 m ²								
	枝下高 3.1 m	枝張 東 10.7 m	西 7.6 m	南 14.2 m	北 13.3 m	最大樹冠幅 27.6 m						
通称	ガジマル		樹齢	年(推定)								
所在地	金武町金武151		所有者	1 国 2 県 3 市町村 ④ その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明								
立地場所	④ 1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)		状況	① 1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他								
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 ⑧ なし		気象条件	月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 平均気温(°C) 16.0 16.1 18.6 21.8 24.5 28.4 降水量(mm) 23.0 34.5 54.5 107.5 218.0 95.5 平均風速 3.9 3.4 4 3.6 3.3 4.2								
	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 ④ 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			(最寄りの7マス-カ)	風向 NW S SSW SSW S S 月 7月 8月 9月 10月 11月 12月							
土地傾斜	① 1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:		2015年	地点:名護 平均気温(°C) 28.8 28.6 27.5 24.8 23.2 19.4 降水量(mm) 471.0 270.0 39.5 80.5 95.0 106.0 平均風速 4.9 3.8 3 3.7 3.4 3.9 風向 ESE S SE NNE N S								
	① 1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			年平均気温 23.1 °C 最高気温 33.9 °C 年降水量 1595 mm 最低気温 7.7 °C								
基岩・母材			潮風の影響	1 なし ② ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)								
地形	1 山地 ② 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪 窪 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他		日照条件	1 良い ② 普通 3 やや不良 4 不良								
	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる ④ 4 埴土:ほとんど砂を感じない		周辺樹木の影響	① 1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))								
土性			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 ③ 3 固結している ④ a 踏圧あり b 踏圧なし								
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 ② 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 ③ なし		周辺樹木との関係	1 影響なし ② 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている								

管理状況	1 柵 a 有 ④ 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 ④ 無 3 剪定 a 強 b 弱 ④ 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ④ 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 ④ 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 ④ 無 7 避雷針 a 有 ④ 無 8 定期的な草刈・掃除 ④ a 有 b 無 9 その他	
過去の治療歴と内容		
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 ④ 無 5 いわれの内容 6 不明	
視認性	① 1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)	
特記事項	1 動物生息 a 有 ④ 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 ④ a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオタニワタリ) 3 見学・参観者 a 有 ④ 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット	

地上部の衰退度判定（認定番号73）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0Iに比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.00

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

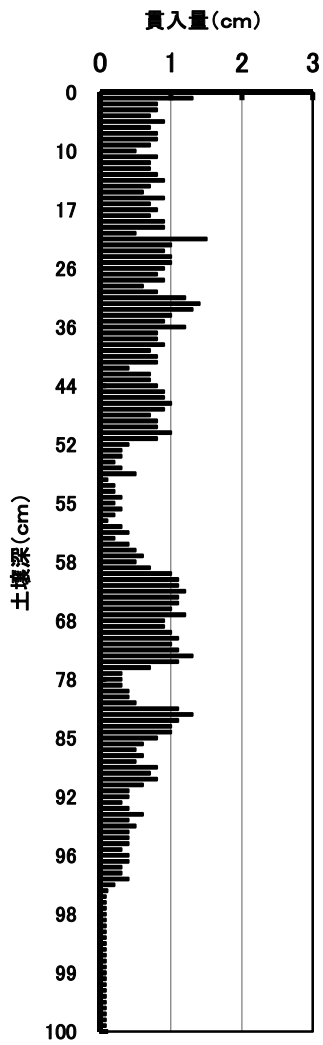
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下				○
幹の傾斜の増大	○			
その他				

土壤調査結果（認定番号 73）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	7.5YR4/6	0-12	—	埴土	8.2	2.5
II	7.5YR5/4	12-26	—	埴土		
III	7.5YR5/6	26-	—	埴壤土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌は北側と南側で異なり、北側はやや北方向に傾斜し砂質で通気性、排水性に富む。pH:9.1、EC:1.2(ds/m)。 ・南側は埴土～埴壤土で通気性、排水性は中庸である。pH:8.2、EC:8.2(ds/m)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・踏圧防止策を検討する。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・露出根が著しく、踏付けによる傷が目立つ。 ・鋼棒貫入の異常は無く腐朽は認められない。 ・西側(建物側)の根が縁石に沿って切断され、根は縁石に沿って伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イチジクカミキリの駆除を検討する。駆除は若い枝幹及び根を中心に行う。 <p>《現在考えられる駆除の方法》</p> <p>フラス部位の樹皮を剥いで穿入孔を確認し、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①穿入孔から針金等で刺殺するか木部を削り取り、捕殺する。 ②穿入痕から腐朽しやすいため、傷口はフラスを除去した後に殺菌剤入り癒合剤を塗布する。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・気根によってイチジクカミキリの食害痕は観察が難しいが、現時点での密度は低いと考える。 ・樹皮に小さな傷痕部が多数あり、気根が発生している。 	
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・枯れ枝のぶら下がりが3箇所見られる。 ・北側に枯死した中枝が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・枯死枝、ぶら下がり枝は早期に切除、撤去することを検討する。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・クダアザミウマ、ムツボシシロカミキリ(食痕判定)の発生が見られるが、密度は低く駆除を要する密度ではないと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な観察を検討する。
備考		

